



「若どり」

第2号

◎ からだをつくる ◎ 心をみがく ◎ わぎを練る

西暦2050年を生きる資質

副校長 河村 明彦



今年度からの八中のスローガンに「FOR 2050」という言葉が掲げられています。西暦2050年の未来を見据えて、その時代に十分生き抜いていけるだけの知恵や資質を今から身に付けるべく努力していきましょう、と呼びかけるものです。2050年と言えば、約30年後の時代です。いったい、どんな時代が到来するのでしょうか。

ところで私は今年、NHKの大河ドラマの西郷どんを毎週楽しみに観ています。あの西郷隆盛を主人公とし、その生涯を描くドラマです。西郷隆盛と言えば江戸時代の末期（幕末）から明治維新にかけて時代の大きな変革を担った最大の功労者と言われる人物です。今年には明治維新から数えて150周年に当たる年です。他国との外交を閉ざし、身分制度を敷いていた江戸の時代が終わり、現代のように世界各国と国交をもち世界経済をリードする民主国家である日本になるまでにたった150年しか経っていないのか、と私はとても感慨深い思いがします。私は、この150年は世の中の制度や仕組、人々の慣習や文化等がめまぐるしく変化した激動の時代と言えると思います。

西郷さんは文政10年（1828年）現在の鹿児島県を拠点とする薩摩藩の下級武士の長男として生まれ、天保12年（1841年）に元服して西郷吉之介と名乗ります。13歳の時ですから、今で言えば中学校1年生です。その後藩主となる島津斉彬を尊崇するようになり、斉彬が藩主になると、しばしば江戸の藩邸で仕えるようになりました。26歳の頃です。その頃黒船に乗ったペリーが浦賀に来航しては日本に通商を迫っていました。このままでは欧米の列強に日本が飲み込まれてしまうとの危機感をもって彼は政治の仕組を変えようと奔走します。失敗しましたが後の徳川慶喜を将軍に擁立しようとしました。30歳の頃です。地方の下級武士に過ぎない人物が一国の権力のトップを変えようと画策するなんて想像を絶する行為です。

そのことで島流しの刑に2度も服したり、生命の危機に瀕することも何度もありましたが、やがては新しい国づくりのためのリーダーシップをとるよう中央に呼び戻され、同じ志をもつ長州藩や土佐藩等の大きな集団の力を結集させ、大政奉還という名のもと、武士による政治時代から欧米型の近代国家に転換する礎を築く立役者となりました。江戸城が戦わずして明け渡されたのが40歳の時です。元服してから約30年近く経っています。新しい国家体制に落ち着く前の混乱状況とも言える西南戦争で西郷さんは戦死しました。49歳でした。

西郷隆盛の歴史的評価は良くも悪くも分かれるところかも知れませんが、いずれにしても歴史を大きく動かす契機となった大人物であることは確かです。いや、既に世の中が大きく変わる転機を迎えていることを敏感に感じとり、その波にしっかりと乗りながら生き抜いていく力を備えた人物だったというのは検討違いでしょうか。たかが30年間の中で偉業をなした西郷さんの資質として私が注目するのは、自分にとって尊敬すべき同時代の人物を多くもち、行動力でその人たちとの積極的な対話を通して自分自身の考え方を作り上げたところです。また、彼が「敬天愛人（けいてんあいじん）」という言葉を残しているように、私利私欲なく真に正しいことを求め、人を誰しも分け隔てなく愛することができる場所。私の勝手な西郷像ですが、これを思うとき、彼の行動力が偉業に繋がったことはとても合点がいくのです。

さて、現八中生はこれから30年先をどう見つめているのでしょうか。何かが大きく変わろうとしていることを予感しているのでしょうか。どう変わり得ても、そこで生き抜いていく資質は幕末から明治にかけて生き抜いた人たちのそれと変わるものではないと思います。八中の学校生活の中でしっかりと身に付けていけるものだと思っています。



離任式

お世話になりました。
いつまでもお元氣でご活躍ください！

5月2日（水曜日）、ゴールデンウィークの谷間となった日の午後、八中を去られた先生方をお迎えしての離任式が行われました。

今回はお忙しい中を8人の先生方がご来校くださいました。久しぶりにお会いできた先生方を2、3年生がとても温かい歓迎の雰囲気をつくってお迎えしてくれました。また、初対面となる1年生も落ち着いた態度で、式に臨んでいました。



体育館での離任式の様子



代表生徒から言葉と花束贈呈の様子

工夫され、生徒の英語の運用能力を伸ばしてくださった同じく英語科の飯沼美千代先生。7年間養護教諭として、生徒の話を受け止め、心に寄り添い生徒の心と体の健康の維持に心を砕いてくださった李 愛美先生。1年間、学習指導員として授業での学習補助をしていただいた久保田恵美子先生。2年間、心の教育相談員として生徒の身近な相談相手になっていただいた山浦華奈先生。毎日、おいしくて栄養バランスを考えた献立で給食を提供してくださった栄養士の篠田洋介さん。それぞれに八中生に対して愛情を込めた言葉で励ましの言葉をくださいました。

当日は、離任式の後、お世話になった多くの卒業生やその保護者の方々もお集まりになり、お別れを惜しんでいらっしゃいました。

先生方の新しい職場でのご活躍を心からお祈りします。

1年間、校長として「日本一明るい学校」を目指して、生徒同士の対話の機会をつくり、また一人一人の生徒が発言できるチャンスを与えてくださった江原賢一校長先生。教務主任として八中の教育の屋台骨を作り、また理科の授業では博識をもとに実験を通じて自然現象の面白さを伝えてくださった遠藤建史先生。8年間本校に在職されいつも明るくさわやかに生徒と接し、英語の基礎・基本を丁寧にご指導くださった酒井理香先生。様々な英語による言語活動を



転出された先生との握手の様子

1年山中湖移動教室



1年移動教室の主な目的は、「みんなちがって みんないい」をスローガンにした集団生活による仲間作りです。体育館で行った活動の中にはそのためのプログラムが組まれていました。お互いの自己紹介を兼ねた名刺交換会であったり、クラス対抗校歌コンクール。気持ちを合わせるための大縄跳び。体育祭の学年種目の練習を兼ねた「いかだ流し」等々。



集団としての力が芽生えました。

4月9日に入学したばかりの1年生は4月24日から1泊2日の移動教室に出かけました。宿泊先は山中湖の湖畔にあるハラマロッジという宿泊施設。出発日は、薄日が射す山中湖周辺で森の新緑や小鳥のさえずり等、自然を満喫することができました。



生徒はお互いに大きな声を掛け合い、クラスメートという絆を確かめ合いながら、一つひとつの活動に対して一生懸命に取り組んでいました。また、宿舎の中でも様々な係や役割をもち、しっかりと取り組めました。

この2日間は雨に降られることもありましたが、これからの1学年の集団の力の高さを感じさせるものでした。

八中体育祭



開会式の様子

百花繚乱

生徒一人ひとりの花が

精一杯咲き輝いた体育祭でした。

5月26日土曜日。第70回八中体育祭を開催しました。やや雲の多い晴天日で暑過ぎもせず、絶好の体育祭日和に恵まれました。

今年度、生徒実行委員会が掲げたスローガンは「百花繚乱 Be together as one」というもの。それぞれの個性や力を発揮し、一つの力に結集させよう。そんな願いが込められました。



全校生徒によるフラッグダンス



3年学級生徒全員が連なったムカデ



全校生徒による八中大江戸ダンス



学級対抗大縄とび



全校生徒によるスクラムの輪

お礼

体育祭開催に際しまして、保護者、地域の皆様には多数ご来校くださり、八中生の演技に熱い声援を送っていただきました。皆様方大勢の視線を浴びながら、全校生徒がやる気に燃え、それぞれの力を精一杯発揮してご期待にそえるような演技をしてくれたと確信しています。この場を借りまして心よりお礼とともに感謝を申し上げます。

八中の体育祭の特徴は生徒の出番が多いところ。ほとんど生徒席で応援できる時間がありません。赤組青組の2チームしかありませんが、生徒が総力戦で得点を競います。順位よりはむしろ種目にしっかりと参加していることで得点が着実に加算されていきます。生徒の参加意識が高まります。

また、大縄跳びやムカデ競争、全校生徒ダンス等、心を一つにしなければ成功しない競技が多く、その完成度が高いところも自慢できるところです。

閉会式の後、八中では例年全校生徒と教職員が肩を組み大きな輪を作ります。今回も皆で大きな輪を作り、実行委員長の3年安齋 碧くんの掛け声でお互いの努力を称え、一本締めをして大きな行事の一つを終えました。

今後の予定 6月

- 6月 4日(月) スポーツテスト
- 6月 8日(金) 第1回オープンキャンパス
- 6月 9日(土) 土曜学校公開日
第1回進路説明会
- 6月13日(水) 前期中間考査1日目
(英語・数学・1,2年社会・3年美術)
- 6月14日(木) 前期中間考査2日目
(国語・1,2年理科・3年技術・3年保健)

- 6月15日(金) 前期中間考査3日目
(※3年のみ 社会・理科)
- 6月21日(木) 歯科検診
- 6月22日(金) 1年音楽鑑賞教室
(なかのZEROホール)
- 6月26日(火) ビブリオバトル
(生徒図書委員会主催)
- 6月28日(木)・6月29日(金)
2年生 職場体験事前訪問

